

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870700345
法人名	社会福祉法人 三善会
事業所名	グループホームはるか
所在地	大洲市春賀甲1666-1 TEL 0893-26-4465
自己評価作成日	平成21年6月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年7月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

毎月、行事や日常の様子等の写真とコメントを掲載した「だんらん新聞」を作成し、地域各事業所に発行している。誕生日外出を事業計画に取り入れ、各個人の行きたい所への外出援助を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 事業所の近所に咲いているお花を見に散歩されたり、月2回、近隣の法人施設で行っている「ニコニコタイム」に参加し、他の参加者とともにお茶を楽しんでおられる。家族会の行事で、ご家族とともに遠足に行かれた。
- ご近所にお住まいの、利用者の同級生の方が時々訪ねて来て下さり、お茶を一緒に飲んだりおしゃべりをされている。利用者の誕生日には、それぞれのご希望に沿って故郷を訪ねたり、ご自宅に戻り過ごされることもある。調査訪問時、利用者の方の誕生日で、ご家族がケーキを持って来られ、一緒にお祝いをされたり、産休の職員もお祝いに駆け付けていた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容を P R!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

グループホームはるか

(ユニット名)

1ユニット

記入者(管理者)

氏 名

西本恵子

評価完了日

21 年 6 月 17 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			「自分らしく和やかに今を生きる」の理念の基 明るく温かな我が家をテーマにあげて職員と話し合って対応している。地域とのつながりを大切にし、地域交流に取り組んでいる	
			(外部評価)	
			理念をもとに職員と話し合い、毎年目標を立て日々取り組まれており、21年度は、「信頼関係」「和」をテーマにして地域、ご家族、利用者との関わりに力を入れていきたいと考えておられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			地域の行事(地方祭、盆踊り、文化祭、学校行事)など利用者と共に参加して楽しませてもらっている。又準備のやぐら設置や、祭り前など清掃活動にも事業所の一員として参加している。	
			(外部評価)	
			運営者は、地域住民の集まりの総会時に事業所を紹介し、理解や協力をお願いされている。利用者が地域の敬老会に参加される際、職員も同行されたり、時に、ご近所の方がお花を持って来て下さった折には、利用者とともにお茶を飲んで帰られることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			だんらん新聞を地域に配布し理解や支援の方法を 地域の人々にお知らせしている。地域の高齢者の暮らしがサポート出来る様 取り組んでいきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			構成員より、地域の行事予定について早目に連絡を受け、情報を共有し、意見をサービスの向上に活用している。又、利用者との触れ合いを大切に、季節によって、茶話会・クリスマス会を組み入れて、馴染みの関係作りを行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(外部評価)	
			運営推進会議では、事業所の行事等の活動報告を行っておられる。又、出席者も避難訓練に参加されたこともある。地域の代表者の方から敬老会の案内をいただき、利用者と職員が参加された。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			職員全員、身体拘束について理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関に感知式のセンサーを設置しているが、利用者が外出されそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり、一緒に同行する等、安全面に配慮しながら、鍵をかけない自由な暮らしを支えるようにしている。	
			(外部評価)	
			職員は、法人内で行う講演会等で、身体拘束をしないケアについて学んでおられる。事業所では、ヒヤリハット事例の検討や事故防止策について職員で話し合いを重ね、身体拘束をしないケアの実践に努めておられる。	さらに、「自分らしく和やかに今を生きる」という事業所の理念に沿って、安全にも十分に気を配りながら、利用者個々が自由に暮らすことができるよう、取り組みの工夫を重ねていかれてほしい。洗面所の利用や浴室の鍵等の対応等、職員で話し合い、検討を続けていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内の研修にて虐待について学んでいる。虐待が見過ごされないよう注意を払い、虐待の防止の徹底に努めていきたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会があれば積極的に参加して学ぶ機会を持っている。現在1名成年後見人制度を利用しているので、職員も理解している。必要な方ができれば、関係者と話し合いながら、活用出来るように対応していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分に説明を行ない、同意を得ている。又、事業所で出来る事、出来ない事を明確の伝え、家族のトラブルがないよう、事前に説明している。契約前に見学や体験入所もして頂き、理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約書に、外部へ連絡が出来るように説明し、記載している。又、介護相談員2名が1ヶ月に1度の訪問があり、相談出来る体制となっている。又、家族会があり、利用者・家族が意見・不満・苦情が出し易い雰囲気になっている。「家族の声」が大切である事を職員で話し合っている。その他にも法人内で苦情委員会を開催し、外部の方に報告し、年2回アドバイスを受けている。 (外部評価) ご家族には、ご本人の暮らしぶり等を細かく報告されている。年3回の家族会は、ご家族も利用者と一緒に行事を楽しまれており、家族同士でも交流されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○ 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回、法人全体の職員会と、GH内の定期ミーティングにて、全体のことについて報告したり、意見を聞いたり、提案があれば話し合う環境を作っている。又、個別に意見等も聞いてスムーズに仕事出来るよう心がけている。(報告・連絡・相談) (外部評価) 日常的に管理者と職員は、意見や提案を出し話し合っておられる。地域の他グループホームの取り組みを参考に「余暇活動」を行ってはどうか、との職員からの提案があり、利用者と相談して活動の曜日を決め、習字等ができるよう支援されている。	
12		○ 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 各自スタッフが目標を立てやすいようにして 業務管理シート作成、それに対ししっかり業務出来たか人事考課表で評価。 就業規則の見直しをし職場環境 の改善を図っている。	
13		○ 職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人トップより定期的に計画を立て、職員研修を実施している。法人の基本方針・社会的ルール・マナー・制度について等、幅広くあり、人材育成に努めている。又、外部研修に全職員が参加出来るようにしている。	
14		○ 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議構成員として、お互いに訪問して交流を行なっている。又、市や協会の研修会や担当者会があり、情報交換をしている。又、担当者会で話し合い昨年より毎月、各事業所の訪問を実施している。地域の同業者と相互の見学・交流をし、情報交換をしていきたい。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人・家族が安心して頂けるよう、傾聴・受容し、意向を十分受け止めた上で話し合いを行なっている。本人に受け入れていただけるよう職員との関係作りを大切にしている。また、信頼関係が築けるよう、話し方やト音・目線や表情など、話し易いような雰囲気作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の意向・不安などを受け止め、ここでの生活状況を説明し信頼関係を築き、安心した生活が送れるようにしている。	
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要な支援を明確にし、本人や家族の思いを受け止め、相談に応じ、必要であれば他事業所のサービスに繋げる対応を行なった。	
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の意欲などを尊重し、又、レクレーションや外出など他者との交流・関係を築いていけるよう配慮した。	
19		○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会などを通し、家族と本人が共に楽しめ、絆を深めあえるよう支援し、又、職員が一方的に支援していくのではなく、家族にも支援して頂くなど関係作りに心がけた。	
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族などの協力を得ながら、馴染みの人や場所・昔ながらの店等、関係が途切れないよう配慮・尊重し、本人が満足されるよう努力した。 (外部評価) ご近所にお住まいの、利用者の同級生の方が時々訪ねて来て下さり、お茶を一緒に飲んだりおしゃべりをされている。利用者の誕生日には、それぞれのご希望に沿って故郷を訪ねたり、ご自宅に戻り過ごされることもある。調査訪問時、利用者の方の誕生日で、ご家族がケーキを持って来られ、一緒にお祝いをされたり、産休の職員もお祝いに駆け付けていた。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員や利用者とは関われる時間を設け、一人ひとりの表情や状態、性格や関係を把握した上で、利用者同士より良い関係が築けるような働き・仲立ちをしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 現在は亡くなって退所された為、継続的な関わりが出来なかったが、今後、サービスを終了される場合があっても、継続的な関わりが出来るような関係を築いていきたい。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常のコミュニケーションの中から、本人の意向や思いをくみ取り、記録に落としたりミーティングやケアカンファレンスで話し合ったりし、情報の共有・利用者の思いの実現に向けての検討を行なっている。	
			(外部評価) 日常的にご本人の希望を聞き、活動につなげておられる。調査訪問時の昼食時、職員は、利用者それぞれにサラダにかける調味料を選べるよう声を掛けておられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) お誕生日には本人の希望された場所への外出援助を行なっている。生まれ故郷や自宅へ帰ってみたいと希望される事が多く、付き添い援助したことで、より一層の生活環境の把握をする事ができている。無理な引き出しはせず、何気ない日常会話から失礼のない限りで情報を集めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者状況チェック表（生活一覧）を作成し、毎日記入しながら生活援助を行なう事で、介護員が利用者全員の一日の過ごし方が分かりやすく一覧で見ることができる。又、毎朝晩の申し送りにより、スムーズに職員に現状把握が出来るよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○ チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月、職員ミーティング時にケアカンファレンスを行ない、全職員の意見交換・提案などが活かされている。又、モニタリング(3ヶ月に1回)を実施。ご家族・本人・職員参加してのサービス担当者会を定期的開催し、ケアプランの作成・見直しを行なっている。又、毎月ケアカンファレンスを実施し、本人・家族・医師の意向や意見も含めて、新たな計画の情報収集・意見交換を行ない、新たな計画に活かしている。	
			(外部評価) ご家族に意見を聞き取り、介護計画に採り入れるよう努めておられる。現在、安心して事業所に任せておられるご家族も多く、計画についての意見が出されることは少な目である。	ご家族がご本人の暮らしとケアのあり方について、意見を出しやすいような工夫を重ねていかれてほしい。
27		○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別にファイルを用意し、状態観察記録はエピソード・医療関係の記録を行なっている。又、利用者状況一覧表で、一日の利用者の方の生活スタイルが一目で把握できるようになっている。	
			(外部評価) 空室がある場合は入居宿泊体験ができるようになっている。本人・家族の状況に応じて、受診・送迎等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。(家族同行困難時は、職員同行にて法人内介護タクシー利用)	
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人内にデイサービス・在宅支援センター等在宅サービス事業がある。必要時には介護タクシーを利用し、外出拡大の支援を行ったり、家族との外出を支援している。地域の介護相談員さんに毎月来て頂き、利用者の生活の様子等、協力しながら支援している。	
			(外部評価) 空室がある場合は入居宿泊体験ができるようになっている。本人・家族の状況に応じて、受診・送迎等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。(家族同行困難時は、職員同行にて法人内介護タクシー利用)	
29		○ 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 法人内にデイサービス・在宅支援センター等在宅サービス事業がある。必要時には介護タクシーを利用し、外出拡大の支援を行ったり、家族との外出を支援している。地域の介護相談員さんに毎月来て頂き、利用者の生活の様子等、協力しながら支援している。	
			(外部評価) 空室がある場合は入居宿泊体験ができるようになっている。本人・家族の状況に応じて、受診・送迎等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。(家族同行困難時は、職員同行にて法人内介護タクシー利用)	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○ かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医の往診が2週間に1回あり。状態の変化に応じ て受診や往診を依頼している。適切な医療を受けられ るよう主治医・家族との連携を密に行なっている。必 要に応じて家族同伴の時もある。	
			(外部評価) 専門医等の受診は、ご家族又は、職員が介護タクシー を利用して通院に同行されている。協力医には、利用 者の食欲や体力の低下時の支援についても、アドバイ スをいただいている。	
31		○ 看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 主治医と連携を図りいつでも気軽に相談できるよう になっている。現場にも正看護師を配置している。また 他事業所の看護師にも協力していただいている。	
			(外部評価)	
32		○ 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された場合には、担当者をはじめ介護職 員が面会に行き、入院時の状態把握・家族への支援に 努めている。病院からの退院サマリーで不明な点や留 意事項は医療機関への相談を速やかに行うようにして いる。	
			(外部評価)	
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 主治医・家族との連携を図り、いざという時に早期対 応が出来るように早い段階から状態の変化について話 し合いをしている。症状悪化時、家族と主治医・本 人・GH職員で今後の話し合いを持っている。GHで 対応出来ること・出来ないこと(医療行為)を職員一人 ひとり周知している。又、家族会で集まって頂いた 際、終末期のあり方について、ご家族の方の意見も 伺っている。	
			(外部評価) 現在、ご家族の中には、終末期は事業所で過ごしたい と希望される方もある。事業所では、医療が必要に なったような時には、事業所での支援がむづかしいと いうことを伝えておられる。	ご家族の希望やご本人の思い等も十分踏まえて、事業 所でできることについて、話し合うような機会を作っ ていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急事態のマニュアルがあり、全ての職員が把握できており、対応することができる。また、母体施設を中心に全体でも、行政関係者・消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生技術の研修を実施し、全ての職員が対応できるようにしている。昨年度より、母体施設にAEDを設置し、施設だけでなく、地域の方への呼びかけを行なっている。	
35	13	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 2ヶ月に1回利用者と共に避難訓練を実施している。また、自動通報装置を設置しており、速やかな対応に努めている。実施することにマニュアルの見直しを行ない、より良いマニュアル作成に取り組んでいる。また、消防署の協力を得て、訓練について定期的に指導して頂いており、法人全体の協力も得ている。又、地域消防団の方にも火災や災害時等協力して頂けるようになっている。 (外部評価) 運営推進会議時、避難訓練を実施した際、地域の代表者の方からアドバイスをいただき、救助する人が利用者の避難確認ができるように、居室、トイレの入り口に新たに確認札を設置された。	いざという時に協力していただける人を増やしていかれてほしい。又、災害時に地域の方達と協力し合えるような体制作りについても、考えてみてはどうだろうか。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○ 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄の誘導・介助や確認・失禁の対応については、不安や羞恥心・プライバシーに配慮している。申し送りについても利用者のいる所ではないよう配慮して行っている。 (外部評価) 職員は、ミーティング等で日頃のケアを振り返り、言葉かけや対応について気付いたことを話し合うようにされている。トイレに使用済みパットを包む新聞紙を置き、利用者がご自分でも処理ができるようにされている。	居室に設置されている排泄チェック表や清掃確認表等の扱い、オムツ類の整理等、利用者のプライバシーの保護の観点から工夫や配慮はないだろうか。職員で話し合われてはどうだろうか。
37		○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者のリズムに合わせた声掛けを行ない、意思表示が困難な方には、ジェスチャーや表情・筆談などで、細かな本人の意思を尊重している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の体調や生活ペースに合わせ、又、本人の気持ちを尊重した個別性のある支援を行なっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者に合わせ、理・美容室の利用の支援を行なっている。また、ホーム内で気軽におしゃれができるよう出張美容サービスを利用している。又、ショッピングに行った際、自分で好みの洋服などを選んで頂いている。又、常に清潔を心がけ、身だしなみ等細かな支援を行なっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事前に日付け・メニューなどを言って頂き、当番制で毎日順番に「いただきます」の声掛けをして頂いている。食事中混乱する方や一気に食事をされ誤嚥の危険がある方には、職員が側で食事を共にしてさりげなく目配りやサポートをし、食事がゆったりと楽しめるように心掛けている。又、後片付けは利用者の体調を見ながら一緒に行なってもらっている。 (外部評価) 朝、夕食は、事業所で作り、昼食は法人からできたものが届くようになっている。ご飯は事業所でお粥にもできるようになっている。おかずは、本人に聞きながら食べやすいよう切る等されている。食後には食器拭きをされている利用者がうかがえた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士による献立表の作成により、栄養のバランスのとれた食事が摂取できている。摂取量が少ない場合、補助食品にて対応している。又、水分補給も個々の好みに合わせた物を提供する事で、水分量が確保できるよう努めている。食べる量・水分摂取量については適時確認している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の歯磨きの声掛けは行なっているが、朝・昼の口腔ケアの習慣が付いていない方や困難な方がおられる。うがいも困難な方は水分補給をして頂く事で口腔内に残碎物が残らないよう努めている。(義歯洗浄週一回実施)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			個々の排泄パターンを把握し、早めにトイレの声掛けを行なう等、自立に向けた支援を行なっている。また、安心して排泄が促せるよう環境作りに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			利用者の排泄のサインを察知して声かけし、誘導されている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			入浴希望者は中止日以外、毎日入浴している。入浴が好きでない方には無理な声掛けはせず、声掛けや対応の工夫等を行なって気持ちよく入浴出来るよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			職員は、利用者に入浴の声かけを行い、午前、午後等希望をお聞きして支援されている。毎日入浴される方や一人で入られる方もそっと見守り、安全にくつろいで入っていただけるよう支援されている。	現在、浴槽の中で温まることがむづかしい方がくつろげるための支援の工夫について、検討されている。
46			(自己評価)	
			体調不良や足の浮腫がある方には声掛けをし、ベッドで足を高くあげて休んで頂く等の支援をしている。日中はレクリエーション活動や本人の興味のある事や好きな活動をして頂き、生活のリズムを作り安眠に繋げている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬一覧表を作成し、いつ何を飲まれているのかが一目でわかるようにしている。また目的や副作用等が記載されている用紙がある。職員の申し送りでも確認している。症状の変化にも留意し、主治医との連携を取りながら本人に合った服薬・調節を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意分野で一人ひとりの力を発揮できるよう、個々の得意な分野や好きな事を活かした役割をさせていただいている。仕事を頼んだ場合には感謝の気持ちを伝え本人のやる気に繋げていけるよう努めている。外出や地域行事への参加など楽しい事を利用者と共感できるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望や天気に応じ、気分転換を図れるように日常的な散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。一人ひとりの習慣や楽しみ事に合わせて外出を企画し、ストレス発散・四季を感じてもらっている。 (外部評価) 事業所の近所に咲いているお花を見に散歩されたり、月2回、近隣の法人施設で行っている「ニコニコタイム」に参加し、他の参加者とともにお茶を楽しんでおられる。家族会の行事で、ご家族もともに遠足に行かれた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分の財布からお金を出したり、小額を手元に持たれていることでの安心感や満足感に配慮している。家族よりお金を預かり事務所で管理している利用者でも外出や行事などではお金を手渡し、自分で支払いをして頂くなどの工夫をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や友人等に電話をしやすい雰囲気作りや職員からの声かけを行なっている。また会話が他の利用者に聞こえないよう事務所で利用してもらっている。年賀状や暑中見舞い、お礼状など手紙を出す為の支援を行ない、利用者の思いを汲み取り支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			季節の花をテーブル・洗面台等に生け季節を感じて頂けるような雰囲気づくりをしている。また、中庭にスペースがあり室内からも季節を感じれるような造りになっている。カレンダーや行事案内を掲示し、利用者にわかりやすいように工夫している。又、入浴時、浴槽から季節折々の景色や花々を眺めることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			玄関や談話コーナー等、建物の一画一画に椅子を置き、誰でも休める空間を作り、一人でゆったりと過ごしたり、仲の良い者同士で過ごすことができるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			本人の馴染みの物・必要とする物を持って来て頂き、居心地が良く不安を与えない居室作りに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			本人にとって「何が分かり難いか」「どうしたら本人の力でできるのか」を追求し環境整備に努めている。状態が変わり新たな混乱や失敗が生じた場合は適時、職員一同で話し合い本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せる環境作りができるよう試みている。	